

令和5年度下半期実施アンケートの活用状況

アンケート 担当課 実施期間	目的	活用状況	
まちづくり (都市計画課) 10/6～ 10/16	「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進めていくため、お聞きしました。今年度も多くの方にご回答をいただき、皆さまのまちづくりへの高い関心が伺えました。今後も定期的にアンケートを実施していく予定です。ご協力をお願いします。	反映する方法を検討中	本市では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを目指し、令和3年3月に倉敷市立地適正化計画を策定しました。本計画を「知らない（興味はある）」または「知らない（興味もない）」と回答した方の割合は、78.3%（R4）→70.6%（R5）と減少しており、依然として計画を知らない方が7割以上を占めています。この結果を踏まえ、出前講座に加えて、そのほかにも周知する場を増やし、より多くの方に本計画を知っていただけるよう努めてまいります。
		計画に反映	「あなたが住みたいと望む場所」の回答では、「生活に身近な商店等やバス停が近くにある公共交通の沿線での暮らし」または「拠点や駅周辺まで徒歩や自転車で行けるまちなかでの暮らし」と回答した方が67.0%（R4）→74.1%（R5）と増加しており、公共交通沿線や徒歩、自転車での便利な暮らし等への関心が高まっていることが伺えました。 また、「まちなかでコンパクトなまちづくりを進める際に重視すべきこと」として、77.3%の方が、日常生活に必要な身近な買い物環境や病院などサービス機能の充実を求められていることが分かりました。 これらの結果を踏まえ、立地適正化計画に基づく施策・事業の実施状況について調査・分析及び評価を行い、計画の妥当性を精査・検証した上で、必要に応じて計画の見直しを行うなど、今後も「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考え方に基づいたまちづくりを推進してまいります。
スポーツ振興 (スポーツ振興課) 10/20～ 10/30	スポーツ活動への取組状況を把握し、ご意見を始めたとする調査結果を今後のスポーツ振興の取組への参考とするため、実施しました。	反映予定	週1回以上スポーツを実施する人の割合は、昨年度と比べてほぼ横ばい（57.2%→56.6%）となりました。さらに多くの市民が日常的にスポーツに取り組むことができる機会や場、情報の提供を行い、生涯スポーツ社会の実現を目指していきます。
		反映予定	この一年でスポーツ観戦をした人の割合が増加しており（56.5%→62.6%）、スポーツへの関心が高まっていることがうかがえます。引き続きプロ野球公式戦等の誘致を行うとともに、県内のトップチームやトップアスリートの活動等を積極的に広報し、観戦機会の拡大を図ります。
		反映予定	スポーツを楽しむ施設が身近にあると感じる人の割合は、昨年度と比べて増加（53.1%→57.2%）となりました。本市のスポーツ施設のライフサイクルコスト縮減や財政負担の平準化を図り、効果的、効率的なサービスの提供を継続していくことを目指します。
		施策に反映	倉敷市スポーツ情報サイト「Kurashiki Sports Navi」を知っている人の割合は増加しましたが（18.8%→23%）、依然として8割近くの人が知らなかったと回答しています。前回の結果と同様に、「知らなかったが、利用・閲覧してみたい」と回答した人が6割程度います。「Kurashiki Sports Navi」の認知度向上のため、様々なスポーツ情報をSNS（X：旧twitterやFacebook等）で積極的に発信しています。

令和5年度下半期実施アンケートの活用状況

アンケート 担当課 実施期間	目的	活用状況	
心の健康 (保健課) 11/2～ 11/13	精神疾患や精神障 がいに対する正しい 理解に関するもの、 くらしき心 ほっとサポーター の周知度、ゲート キーパーの周知度 等について調査し ています。	反映予定	「くらしき心ほっとサポーターの名前も活動内容も知っている」の回答割合は増加がみられませんでした（6.3%（H26）→5.5%（R5））。くらしき心ほっとサポーター活動について今後も地域に周知する機会を設けていきます。
		反映する方法を検討中	「精神科の病気は他の病気と同じ医学的な病気である」などの問いで、いずれの項目も「そう思う」「ややそう思う」と回答をされた方が、平成26年と比較すると増加していました。くらしき心ほっとサポーターの地域に根差した精神疾患に対する理解を深めるための普及啓発や偏見除去の活動の効果もあると思われます。精神疾患をもつ方が地域で安心して生活できるように、心ほっとサポーターと協働で精神疾患に対する正しい知識の普及や偏見除去のための啓発活動を続けていきます。
		反映する方法を検討中	「ゲートキーパーを知っていますか」では、「全く知らない」の回答割合が増加していました（70.7%（H26）→81.1%（R5））。ゲートキーパー養成研修を地域や大学との連携を図りながら実施していますが、より多くの方に研修を受講していただけるよう、地域や大学等様々な機関との連携を図りながら周知していきます。
		反映予定	「（ピアサポーターを）全く知らない」との回答割合は66.3%でしたので、今後、より多くの方にピアサポート活動を知ってもらえるよう普及啓発活動を行っていきます。
倉敷市公式ホームページ (くらしき 情報発信 課) 11/17～ 11/27	現行の倉敷市公式ホームページの課題を洗い出し、更新・改修の参考にするために実施しました。	施策に反映	市公式ホームページを見る目的の設問では、「生活に必要な情報を得るため」、「イベント情報を探すため」の回答が上位を占めていたため、これらの情報の充実・更新を優先的に行うことが重要であると感じました。また、検索方法は、「検索エンジンで探す」と「ホームページのサイト内検索で探す」の回答の合計が5割を超えていますが、「トップページの分類から探す」との回答も4割を超えていることから、より探しやすいサイトにするためには、直感的で分かりやすい情報分類の構築も必要であることが分かりました。皆さまからいただいたご意見を参考に、令和7年3月の公開に向けて、市公式ホームページのリニューアルを進めています。
市税に関する広報 (税制課)	市税の広報活動を行っていく上で、効果的な手段を検討することと、近年普及しているSNSを活用した情報発信を実施する	施策に反映	市税の広報を、広報くらしきの折り込みチラシや冊子等を通じて発信してきましたが、「見たことがない」との回答された方の割合が40.3%と上位にありました。課題を再認識し、紙媒体も継続しつつ、近年普及しているSNSでの投稿にも力を入れるなど、複数のチャンネルを活用しました。
		施策に反映	市税の広報の媒体について、「SNS（Instagram、YouTube）」の回答割合が特に若い世代の方が高かった（全世代では20.6%に対して、30代以下は45.8%）、若い世代の方に響くよう、親しみやすいキャラクターを活用して簡潔で分かりやすいメッセージで伝えたり、情報過多の時代でもあるため、情報の正確性を意識した投稿を行いました。

令和5年度下半期実施アンケートの活用状況

アンケート 担当課 実施期間	目的	活用状況	
12/15～ 12/25	にあたり、市民の皆さまのニーズを把握することを目的に実施しました。	施策に反映	SNSから得たい情報についての設問では、「各種税の手続き案内（持参するもの等）」や「市税の計算方法や仕組み」の回答が上位を占めていたので、これらを取り入れて投稿しています。 また、11月11日から始まる「税を考える週間」に合わせて、手続き案内や申請方法などを市税キャラクターのタックス隊長がわかりやすく解説したYOUTUBE動画を5本投稿しています。ぜひ「みぢかな税金展」で検索し、市税に関する動画を御覧ください。
健康くらしき21 (健康づくり課) 1/5～ 1/15	倉敷市の健康増進計画「健康くらしき21」に対するご意見や、皆さまの日頃の健康管理についてお聞きするため実施しました。		計画に反映
日本遺産 (日本遺産推進室) 1/19～ 1/29	本市が認定されている日本遺産ストーリーの認知度を把握し、今後の日本遺産事業を推進する上での参考とするため実施しました。	施策に反映	文化庁が認定している日本遺産の制度について、過半数を超える方が「聞いたことはあるがあまり知らない」「知らない」との回答でした。 日本遺産フェスティバルの認知度については、8割を超える方が「知らない」と回答でした。 以上の結果から、まずは本市に住む皆さまに対し、日本遺産そのものの認知度向上を図る必要があると感じました。「日本遺産検定」や「北前船オンラインセミナー」などの事業について、市公式WEBサイト・SNS・ラジオ等を通じて、お知らせしています。
市民満足度(CS) 向上運動 (人事課職員研修所) 2/2～ 2/13	市役所の各所属で取り組んでいる、CS向上運動の成果の確認及び次年度の目標を検討するための資料とするため、実施しました。	施策に反映	「サービス向上のために今後すべきことは？」の設問では、「迅速で丁寧な対応」と「わかりやすい説明」が前年より増加していたため、次年度の職員のCS向上運動研修で周知し、CS向上運動の目標を検討する資料として活用します。
市民モニター制度 (市民広聴課) 2/16～ 2/26	市民モニター制度及びモニターアンケートへの感想を調査し、アンケートへの満足度向上に役立てるために実施しました。	施策に反映	アンケート結果の活用状況についての設問で、「あまり見ていない」「全く見ていない」と回答された方が、31.5%おられ、また「活用されているかわかりにくい」とのご意見を多数いただきました。 より多くの方に活用状況を知っていただけるように、活用状況を「施策に反映」、「計画に反映」、「反映する方法を検討中」、「反映予定」に分類し、公表資料の書式を見やすいレイアウトに改善しました。
		施策に反映	「市民モニター制度について、ご意見・ご要望」として、回答しにくい設問の表記改善、設問内容の専門性緩和などの声をいただきました。 今年度新規に実施した地球温暖化では、専門用語をなるべく平易な言葉に言い換え、わかりにくいものについては、補足をつけるなどの対応をしました。

令和5年度下半期実施アンケートの活用状況

アンケート 担当課 実施期間	目的	活用状況	
倉敷市議会 (議事調査課) 3/1~ 3/11	市民にわかりやすく開かれた議会づくりに向けて、市民の皆さまの率直なご意見・ご要望を議会運営に反映させることを目的にアンケートを実施しました。	施策に反映	アンケート結果の概要(集計結果)は、全ての議員に提供するとともに、市民の皆様に向けては、令和6年5月1日発行の市議会だより第152号に掲載し、公開しました。(市議会だよりは、市の広報紙の別冊として市内全域に配布されています。)
		施策に反映	「市議会に必要な取り組みは？」の設問では、「市民との意見交換」は40%を超える回答がありました。令和7年3月1日発行の市議会だより155号で、各常任委員会ごとに行った「市民意見交換会」の様子、令和7年5月1日発行の市議会だより156号で、市議会での議論が事業の予算化や実現に結びついた取り組みについてお知らせする予定です。
		施策に反映	「市議会に必要な取り組みは？」の設問では、「積極的な情報発信」も40%を超える回答がありました。 最新情報を日々の出来事として、フェイスブックやインスタグラムで発信しており、令和6年9月1日発行の市議会だより153号でも周知しています。 また、市内の小学5・6年生とその家族を市議会に招き、議場見学や正副議長、市民文教正副委員長との対話などの体験イベント「夏休み家族市議会体験ツアー」を実施し、その様子を令和6年12月1日発行の市議会だより154号に掲載し、公開しました。
期間限定 倉敷市ブ レミアム 付きタク シー券 (交通政策 課) 3/15~ 3/25	タクシー利用促進事業の効果を検証するとともに、皆様に普段のタクシーの利用状況についてお尋ねし、今後の公共交通の利用促進施策について検討を行うためアンケートを実施しました。	施策に反映	プレミアム付きタクシー券の販売について認知度について、「知らなかった」を選択した方が6割以上おられ、「もっと広報してほしい」というお声をいただきましたので、今年度、公共交通(路線バス・水島臨海鉄道)の利用促進事業を行った際には、広報紙やホームページ、ラジオ等の媒体に加え、関連団体への情報提供やSNSの活用等、より多くの方に知っていただけるよう、様々な広報手段を活用した情報発信を行いました。
		反映予定	タクシーを利用する上で困っていることをお尋ねしたところ、最も多かった「経済的に負担が大きい」以外に、「待ち時間が長い」や「予約が取りづらい」を選択した方も多く、市内においてもタクシーが不足している実態が明らかとなりました。今後も、市内における公共交通の利用状況等を踏まえながら、利用促進や維持確保のための施策を検討してまいります。

進捗度合により、活用状況の区分を下記のとおりとしています。

- 施策に反映したもの……………施策に反映
- 計画の進捗把握に使用したもの……………計画に反映
- 具体的に反映方法を検討中のもの……………反映する方法を検討中
- 反映方法は未定のもの……………反映予定